

藤沢

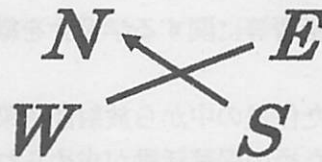
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2013年6月1日

第229号



- 主 事
- ・放射能汚染水と地下水の放出
 - ・総会(活動報告 決算 活動計画等)
 - ・西尾氏の講演「放射能の健康被害について」
 - ・放射能測定値

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

放射能汚染水と地下水の放出

東京電力は2013年5月13日に、福島第一原発から出る放射能汚染水を減らすために敷地内の地下水を海に流したいと福島県漁業協同組合連合会に計画を提示した。組合長レベルでは当初は了承の見通しだったが、組合員から異議が出て、結論が先送りされた。

第一原発では、事故で解け落ちた核燃料を冷やすために淡水を掛け続けており、高濃度の汚染水が原子炉建屋に溜まり、それを地上のタンクなどに保管している。その量は現在38万トンになっており、2015年には70万トンに膨らむとみられ、その処理が廃炉に向けての作業の最大問題である。

この建屋に1日400トンの地下水が流れ込み、汚染水増加の一因となっている。そこで東電は、地下水の放射性物質の濃度は河川水より低いとして、海洋放出を計画したのである。

漁連の了承の理由は、地下貯水槽からの漏れ、風評被害などであるが、最大のものは、東電への不信感であろう。とめどもなく増え続ける汚染水をどうするのかについて東電は、ゆくゆくは一定の処理をした上での汚染水の海洋放出を目論んでいる。しかし、世論が厳しく、出口はまったく見えない。地下水放出は、その小手調べである。まず地下水放出で慣れさせ、本格的に海洋放出に移ろうという魂胆がみえみえである。

他方、政府に対する原子力ムラの再稼働の圧力が強い。また、原子力発電システムの輸出について、政財界はきわめて熱心である。よほど儲かるのであろう。

しかし、その最大のネックは、福島第一原発の廃炉の工程表を描けないことである。その前に立ちだかる最大の壁が汚染水である。

汚染水を放出させてはならない・

(川崎 健)



アジサイ 大清水中学校前の境川の堤

藤沢エコネット2012年度活動報告

★2012年度の活動は、2011年3月11日の東日本大震災福島第1原発事故の爪痕が強く残り、放射能に汚染された海や食物の人体への影響等に関する学習会を継続して行いました。

学習会に参加した住民の中から放射能汚染に怯える福島の子もたちのための保養活動が求められているとの提案があり、福島の親子保養活動をおこなう会「福島の子もたちとともに・湘南の会」の発足準備・運営を藤沢エコネット事務局会員が他団体の市民とともに担うことになりました。夏と春の2回のリフレッシュ活動をおこないました。

○6月に、「原発からの撤退を求める署名」を署名

860筆とともに衆議院に提出しました。

○赤字経営の藤沢市有機質資源再生センターは8月、臭気問題で一時停止。その後地元の要望もあり、2015年度に操業停止と決まりました。2006年当時、地元の反対を押し切って、国の方針通り見通しなく始めた事業と言えます。

(1) 脱原発の活動

脱原発関連学習会（共催）と映画上映会、合わせて5回おこないました。また7月、9月、3月の脱原発集会とパレードに参加しました。

学習会は毎回参加者100人近くで、脱原発への関心が高まりました。

5月から夏にかけて原発稼働ゼロになり、計画停電なしで、世の中が回りました。秋におこなわれた国のパブリックコメントでは過半数の約7割が脱原発という結果でした。しかし、その後12月衆議院選挙がおこなわれ、政権が民主党から自民党に移ると、脱原発は遠のき、大飯原発は再稼働され、原発輸出契約も盛んにおこなわれています。脱原発運動の再構築が求められています。

◆脱原発集会とパレードに参加

・7月16日代々木公園での「原発さよなら！」大集会、(17万人)に参加、国民世論の力となりました。

・9月「原発卒業だヨ！全員集合2012」～未来へ歩こう湘南パレード～（主催イマジン湘南、約600人）に参加し、団体交流できました。

・2013年3月「311から生きる知恵 イマジン湘南まつり」（個人ネットワーク）で「福島の子もたちとともに・湘南の会」がブースを開き展示、原発事故紙芝居をしました。

◆脱原発関連学習・上映会

5月「脱原発にむけた自然エネルギー戦略」本島勲氏

6月「海の放射能汚染と魚介類」川崎健氏

11月「海から世界が見える」阿部久氏・武本国弘氏

12月「シュウナウの想い」映画：藤沢環境フェアで

1月「真実はどこに？」映画と福島の現状：吉田邦博氏

◆脱原発請願署名

6月に、藤沢市議会で3月に採択された文面と同じ「原発からの撤退を求める署名」を署名860筆とともに阿部知子衆議院議員の紹介で衆議院に提出しました。

3月の市議会から国への意見書とともに、その後の脱原発への国民世論の力の一助となりました。

◆原発国民投票

勉強会を開き、賛成も反対も国民投票で原発問題をきめるべきと学習し、協力しました。

◆「ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南」2回の保養活動

福島の子もたちとともに・湘南の会は、放射能汚染保養対策として、福島県南相馬市を中心とする親子32人を招き、7月27日～31日と、2013年3月27日～3月31日に「こどもの国」と「かながわ女性センター」に宿泊して、海とこどもの国等で遊びリフレッシュ活動をおこないました。費用は寄付と助成金です。

(2) 環境保全活動

年2回のNO2大気汚染調査、毎月の放射能汚染調査、年1回のぜん息調査をおこないました。

◆ふじさわ環境フェアに企画運営委員として参加しました。

◆大気汚染調査では、夏冬とも平均は環境基準をクリアしていましたが、用田周辺や大庭隧道など車が多く、狭いあるいはトンネルなどの道では依然として大気汚染は深刻です。早急に対策が求められます。旧基準0.02ppmをクリアしていないため、ぜん息は減少せず、横ばいです。基準を元に戻すことが求められます。（現基準は0.04～0.06ppm）

◆放射能調査 2011年度初めは公園などの空間線量などが問題でしたが、空間線量はだんだん落ち着き、0.06μSv/h前後（震災前の約2倍）を推移しています。しかし土壌に汚染がとどまり、200 Bq/Kg 前後のところもあり、藤沢も安心とは言えません。

市は給食を毎日検査をしています。国の基準が厳しく、食べ物は100 Bq/Kg 水は50 Bq/Kg となりましたが、食べ物は内部被曝に繋がるため、検出されたら給食に使わないという原則を求められています。

◆環境フェアは今年度は12月に開催されました。市民団体、行政、大学、事業者等多彩に交流しました。藤沢エコネットでは展示の他、自然エネルギーを市民の手で実現したドイツのドキュメンタリー映画「シュウナウの想い」を上映しました。

(3) バイオハザード予防活動

武田薬品湘南研究所の2011年末の漏洩、安全性検証を外部機関に依頼したとの報告から約1年経過。3者連絡会のみに説明し、議会や市民に広く説明をしていません。

武田問題対策連絡会では30か所以上からの一括集中滅菌方式の危険性、違法性を指摘し、改善を求めて質問や要望書

を藤沢・鎌倉両市、国へ提出し話し合いました。建物全体が一研究室という前代未聞な解釈で合法と行政は強弁しています。引き続き目を離せません。

(4) 市内環境情報交換活動

毎月環境情報交換のために藤沢エコネットニュースを発行しています。216号(2012.5)から227号(2013.4)まで発行しました。更に4月に号外を発行し、「原発からの撤退を求める意見書の提出を求める請願」が3月市議会で採択され、3月28日に国の関係機関に提出されたことを伝えました。

A4版4ページが定着しました。

2013年度 活動計画 藤沢エコネット

「人間が住むにふさわしい環境都市藤沢の実現」にむけて、脱原発の運動をすすめ、低炭素都市ふじさわの実現をめざして活動する。

- ①年間テーマ脱原発・低炭素都市ふじさわをめざして
- ②例会 一必要に応じ 学習会 講座 情報交換など
- ③ニュース発行 ー 毎月1回 228号(2013.5月号)～239号(2014.4月号)
- ④学習会開催 ー 放射能環境影響など学習会開催
- ⑤見学会開催 ー エネルギー関連施設見学会
- ⑥ふじさわ環境フェアへの取り組みー藤沢市環境フェア企画運営委員会参加。展示・講座などに参加。

⑦共通する課題での活動

- ・武田薬品湘南研究所安全対策
- ・放射能汚染対策・保養(リフレッシュ)活動
- ・ごみ問題(ごみ行政 有料化問題 リサイクルセンター焼却灰希釈施設建設問題 ガレキ処理問題)
- ・大気汚染と子どものぜん息調査
- ・脱原発集会・パレード参加 (9.11・3.11)

⑧環境に関する政策提言

- ・放射性廃棄物に関する行政への意見書
- ・年間1ミリシーベルト以上の住宅からの移住の権利保障他

⑨部会活動

- 編集部会：ニュース編集発行
- ホームページ部会：インターネットによる環境情報発信
- 開発・みどり部会：開発問題と自然保護
- 大気部会：年2回全国一斉大気測定(NO₂)、
- 地球温暖化防止部会：「低炭素都市ふじさわをめざして」調査・学習・啓発
- 環境影響部会：バイオや化学物質などが環境に与える影響について調査・提言
- ごみ問題部会：ごみ減量リサイクル ごみ有料化問題
- 原発・放射能影響部会：原発問題と放射能影響調査

2012年度 決算(2012.5月～2013.4月)

収入の部

科目	決算(円)	備考	13年度予算案
繰り越し	3,059		18,222
会費	154,000	52口	200,000
寄付収入	35,500	寄付	20,000
事業収入	25,867	講座等資料代	11,778
合計	218,426		250,000

支出の部

科目	決算	備考	13年度予算案
講師謝礼	30,000	講座2回	40,000
会場費	13,500	推進センター他	12,000
印刷費	18,535	印刷 用紙コピー代	36,000
通信費	128,320	切手 メール便 等	150,000
消耗品	7,849	封筒 ラベルシート	10,000
雑費	2,000	パレード協賛金	2,000
次期繰越	18,222	次期繰越し	0
合計	218,426		250,000

上記のとおり相違ないものと認めます

2013年 5月 10日

西川 渥子 (印)

西尾正道氏(北海道がんセンター名誉院長)が講演 放射性物質による健康被害について学ぶ

西尾氏の講演は、限られた時間にできるだけ話しておきたいとの思いが伝わり、たいへん迫力がありました。かねてから「福島の子もたちとともに・湘南の会」が西尾氏のお話をぜひお聞きしたいとの思いから日大の糸長教授に相談し、主催を日大生物資源科学部にお引受け頂くことになり、会場の提供も出来ました。5月11日雨模様の中、会場はぼぼいっぱい約100名でした。子どもを連れた母親も参加し若い学生も多数、若返った雰囲気を感じました。医師会や医療関係者にと宣伝しましたが、土曜日は診療日で医療関係の方は少なかったように思います。

自己紹介から基礎的な放射能の話の後、本題に。

前号の5月号の巻頭に氏の活動を載せてありますのでご参照下さい。著書「がんセンター院長が語る 放射線健康被害の真実」(1050円)では詳しく書かれています。

内容を映像でより分かりやすく話されました。紙面の関係で書きたいことがたくさんありますが記せず残念です。(次ページにつづく)



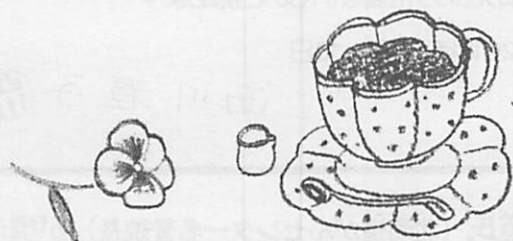
◎福島県が「これからがんが増えるかもしれない」と言われているが2010年の段階でがん登録はやっていない。これから福島県でがんの患者が増えるとしたところと比較になるデータベースが無い。

昔は放射線の医学講座も、基礎医学講座と臨床医学講座と2つあった。基礎放射線医学というのは放射線防護学とか放射線生物学とか、動物や細胞に放射線を当てるとどうなるかという研究をしていた。ところが採算が合わないからバツバツと切られ無くなった。

◎ゲルマニウム半導体を持っていて測定できる場所が病院には無い。解剖した臓器を取ってちゃんと研究する施設・体制すらない。

西尾氏は、放射性物質のセシウム針を用いて癌治療を長くしてこられた方です。その経験から体内に取り込んだ放射性物質による内部被曝について鋭い考察をしておられ、わかりやすく説明をしてくださいました。原発事故後、体内の被曝量を測る機器＝ホール・ボディ・カウンターを用いて内部被曝を測定したり、その方法を伝えに南相馬まで出かけたりしています。

(日比 遥)



放射能測定値

市内13地区 空間測定値

市と市民による測定の比較

地上1m 単位 $\mu\text{Sv/h}$		市の測定 値3月	自主測定 3月
片瀬	西浜公園	0.04	0.036
鶴沼	奥田公園	0.10	0.025
藤沢	大道東公園	0.05	0.050
村岡	村岡城趾公園	0.06	0.040
辻堂	長久保公園	0.05	0.095
明治	柏木公園	0.04	0.027
善行	石原谷公園	0.03	0.055
六会	天神公園	0.03	0.065
湘南台	円行公園	0.03	0.046
湘南大庭	矢向公園	0.04	0.031
遠藤	秋葉台公園	0.05	0.071
長後	長後公園	0.03	0.017

(藤沢エコネットニュース 229号)

ECONET INFORMATION

大気汚染 NO_2 一斉測定 (簡易カプセルによる)

6/13(木)～14(金) 24時間 地上1.5mに固定

測定希望者は 事務局まで

遠藤あじさいまつり

小出川のえびす橋～大黒橋

野菜即売、フリーマーケットなど

6月16日(日) 9:30-15:00

問合わせ: 遠藤市民センター (87) 3009

藤沢探鳥クラブ 江の島探鳥会

6月19日(水) 8:30 集合: 江の島公園藤棚の下
(弁天橋を渡った左) 0466-34-0381 谷

遠藤世窪谷観察会

6月8日(土)・6月22日(土) 9:30-12:30

9:00 慶応大学バス停に集合

谷戸内の作業を行います 44-1355 森

ヨコハマ環境行動フェスタ 2013

6月15日(土) 11時～17時

会場 クイーンズパーク (横浜市西区)

クロス・パティオ (横浜市西区)

(参加無料、申込み不要)

主催: 横浜市政策課環境プロモーション担当

電話: 045-671-2484

藤沢エコネットから

会費・購読料の納入お願い致します

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 万ザエコネット

(従来の振入方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

事務局会議 6月13日(木) 14:30～

市民活動推進センター

《編集後記》アジサイが咲いて6月は旧暦で水無月ともいう、風情のある呼び方は日本の水田風景そのものだ。水が張られた田んぼにはカエルが鳴き、小川にはホタル飛び交う。そんな日本の風景は間もなく終わるのだろうか?。TPP参加により水田や畑、酪農が守れなくなる。大型の機械化された農業生産だけが採算に合うらしい。田んぼを含む緑地を守らなければ温暖化はまた進むことになるがそれでいいはずはない。(H)